

**令和3年度
札幌市男女共同参画に関する市民意識調査
報 告 書**

札 幌 市

調査の概要	1
Ⅰ. 調査の概要	3
1 調査目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 回収結果	3
Ⅱ. 調査対象者の構成	4
Ⅲ. 表の読み方	5
調査結果の概要	7
Ⅰ. 男女平等に関する意識について	9
1 男女の地位の平等感	9
2 「男性は仕事、女性は家事や育児」という考え方に対する意識	13
3 政策・方針決定に女性の参画が少ない理由	15
Ⅱ. ワーク・ライフ・バランスについて	19
1 結婚している人が仕事や家事に要する時間	19
2 男性が家事・育児・介護に積極的に参加するために必要なこと	23
3 男性の「育児休業」や「介護休業」の利用について	25
4 「育児休業」や「介護休業」を利用する男性が少ない理由について	28
Ⅲ. 地域活動について	30
1 参加したことがある地域活動	30
2 地域活動に参加したことがない理由	33
3 地域活動のリーダーとしての女性の参画の必要性	35
4 地域活動のリーダーとして女性の参画を促すために必要なこと	37
5 災害時の避難所運営における男女共同参画について	39
6 男女共同参画の視点から必要な避難所での配慮	41
Ⅳ. 暴力、セクシュアル・ハラスメント等について	44
1 配偶者や恋人から行われた行為についての暴力としての認識	44
2 ドメスティック・バイオレンス（DV）の相談窓口の認知度	49
3 ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験など	52
4 ドメスティック・バイオレンス（DV）を経験した際の相談先	54
5 ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者が相談できなかった理由	56
6 ドメスティック・バイオレンス（DV）に必要な取組	59
7 性暴力被害の相談窓口の認知度	61
8 セクシュアル・ハラスメントの経験	62
9 どのようなセクシュアル・ハラスメントを受けたか	63
10 女性の生涯にわたる健康づくりへの支援策	65
Ⅴ. 性の多様性について	67
1 性的少数者に対する理解の促進や支援のために必要なこと	67
2 性的少数者に関する制度や相談窓口の認知度	68

VI. 男女共同参画に関する施策について	69
1 男女共同参画関連事項の認知度	69
2 札幌市男女共同参画センターの利用の有無	74
3 札幌市男女共同参画センターの事業の認知度	76
4 男女共同参画社会を目指すために重要なこと	78
設問・単純集計結果・集計表	81

調査の概要

I. 調査の概要

1 調査目的

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態、ニーズを把握し、今後札幌市が取り組むべき男女共同参画に係る施策の基礎資料とするために実施した。

2 調査の内容

- (1) 男女平等に関する意識
- (2) ワーク・ライフ・バランス
- (3) 地域活動
- (4) 暴力、セクシュアル・ハラスメント等
- (5) 性の多様性
- (6) 男女共同参画に関する施策

3 調査の設計

- (1) 調査地域 札幌市全域
- (2) 調査対象 18歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000人
- (4) 調査方法 郵送及びインターネットによる調査（配布は全て郵送、回収はいずれか）
- (5) 調査期間 令和3年7月22日（木）～8月4日（水）
- (6) 抽出方法 等間隔無作為抽出法

4 回収結果

- (1) 回収数（率） 1,791（44.78%）
- (2) 回収不能数（率） 2,209（55.22%）

II. 調査対象者の構成

区分		実数	比率
全体		1791	100.0
性別	女性	1054	58.8
	男性	711	39.7
	その他	2	0.1
	無回答	24	1.3
年齢	18,19歳	21	1.2
	20歳代	142	7.9
	30歳代	209	11.7
	40歳代	276	15.4
	50歳代	312	17.4
	60歳代	348	19.4
	70歳以上	457	25.5
	無回答	26	1.5
職業	会社・団体などの役員	86	4.8
	正規の社員・職員	456	25.5
	派遣・契約社員	117	6.5
	パートタイマー・アルバイト	258	14.4
	自由業・自営業・家族従業	95	5.3
	家事専業	241	13.5
	学生	45	2.5
	無職	453	25.3
	その他	9	0.5
	無回答	31	1.7
未既婚	未婚	379	21.2
	既婚	1142	63.8
	既婚（配偶者等と離別・死別）	245	13.7
	無回答	25	1.4
家族構成	ひとり暮らし	361	20.2
	配偶者等	840	46.9
	パートナー	18	1.0
	親と子（二世代）	429	24.0
	親と子と孫（三世代）	61	3.4
	その他	52	2.9
	無回答	30	1.7

Ⅲ. 表の読み方

1. Nとは、回答総数（あるいは分類別の回答者数）のことである。
2. 記号の意味は、次の通りである。
 - ・ F : 回答者の基本属性（性別、年代、家族形態等）についての質問（Face Sheet）の略
 - ・ SA : 1つの回答ができる質問（Single Answer の略）
 - ・ MA : 2つ以上の回答ができる質問（Multiple Answers の略）
 - ・ 3LA : 回答を3つまでに制限した質問（3 Limitation Answers の略）
3. 前回調査（平成28年）で回答選択肢が設定されていないものについては、今回調査項目との比較ができない。その場合、前回比増減は数表では「—」で表記し、グラフでは数値表記をしていない。
4. 回答率（各回答の百分率）は、Nを基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0にならない場合（99.9あるいは100.1）がある。
5. 1人の対象者に2つ以上の複数回答（「2つまで」「3つまで」「いくつでも」など）を認めた質問の場合、比率の合計は、回答者数を基数としているので、100%を超えることがある。

